

# 交通安全教育資料



## 特集 みんなの交通安全教育推進運動 スタートかながわ

交通事故死者、年間1名にとどまらねー！

事故総数減少の中、自転車事故は横ばい！

県警によると、平成二十一年中の県内高校生の交通事故による死者はバイクによる一名でした。発生件数は二、〇九二件と昨年に比べ一五五件の減少となり、死傷者数にいたっては、昨年をさらに九三名下回り一、九〇三名となるなど、前年と比べ、一段と減少傾向が強まっています。死者一名については、記録でわかる限り過去四十年でもっとも少ない数字でした。

状態別では、事故件数が全体的に減少傾向にある中、自動車乗車中、特に同乗中の事故が増加しています。また、自転車乗車中の事故がさほど減っておらず、全体の半数を占めるなど相変わらず二輪車事故を大きく上回っています。

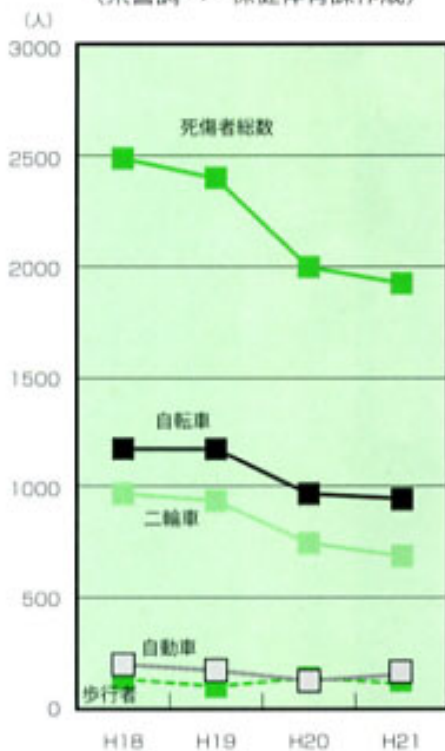
一方で、事故の中には、発生後二十四時間経過したために統計に載らなかった死亡事故が二件あり、事故が減少傾向にあるとはいえ、けつして楽観できないことを示しています。

さて、近年のこのような事故件数の減少は、いくつかの社会的要因はあるものの、長年にわたる各校、各地区の地道な取組みが実を結んだ成果であることは疑いありません。しかし、その反面、このことは学校現場に危機意識の薄れという皮肉な結果を招いてきたことも事実です。

四月より、「かながわ新運動」を改め、みんなの交通安全教育推進運動「スタートかながわ」が始まります。交通安全教育を改めて問い直す機会となることが期待されます。

### 県内高校生の交通事故 状態別死傷者数の推移

（県警調べ・保健体育課作成）





平成22年4月より、「かながわ新運動」から新しくみんなの交通安全教育推進運動「スタートかながわ」になります。今回は、この運動について特集します。

### 「スタートかながわ」とは

小・中・高校の各段階、各学年の児童生徒の発達及び交通事故の実態を踏まえ、思いやりと生命尊重及び遵法の精神を基盤として、交通安全に関する知識と技能を身に付け、各段階・各学年において交通事故の被害者にも加害者にもならないようします。

また、小・中・高各段階での交通安全教育を通して、自らが交通社会の一員としての社会的責任を自覚し、交通事故の防止に向けて主体的に考え行動することができるようにするとともに、事故を未然に防ぐための知識・技能を定着させ、生涯にわたって「へるま社会」を生きる力を育成する運動です。

### 「スタートかながわ」への経緯

高校生が主体となり、学校・家庭・地域が相互に協力連携しつつ支援していく「かながわ新運動」が平成22年から行われてきました。しかし、「かながわ新運動」は高校生の二輪車事故防止教育のイメージが強かったことや、各学校での自転車事故の増加、乗車マナーの悪さの指摘、歩行中の事故の増加などから平成20年から見直しの気運が高まり、このたび「かながわ新運動」の理念を継承・発展させ、全人教育としての交通安全教育運動、「スタートかながわ」を行うことになりました。

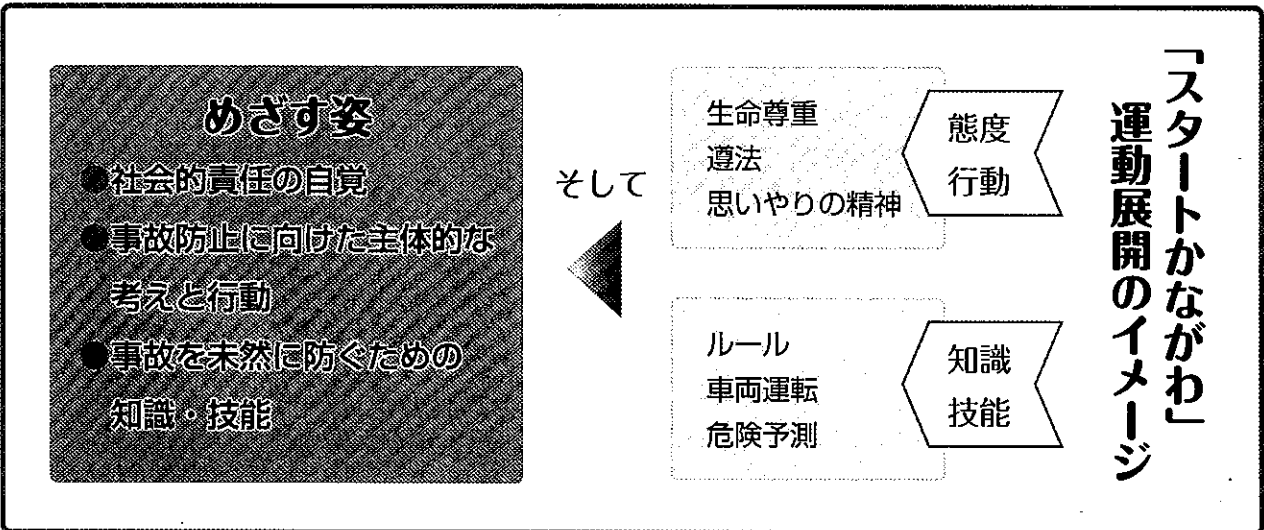
### ネーミングについて

「スタート」にこめたオ・モ・イ  
「スタート」という言葉には、児童生徒・保護者・教員が常に新たな気持ちで、主体的に取り組んで欲しいという願いが込められています。また、  
「よめ、始めよう!!!」  
「おはようから行動しよう!!!」  
「初心なるべからず!!!」  
などの意味も持たせています。

### 「スタートかながわ」の理念



### 「スタートかながわ」運動展開のイメージ



### 各段階での取扱い

「スタートかながわ」は小・中・高を通じた運動

#### 小学校段階

- 他人を思いやる優しさやマナー、ルールを守って行動できるようにする。
- 主に歩行者及び自転車の運転者として必要な実践的な知識と技能を習得する。

#### 中学校段階

- 思いやりを持ち、自己の安全だけでなく他人の安全にも配慮した行動がとれるようになる。
- 主に自転車の運転者として安全に道路を通行するために必要な科学的知識と技能を習得する。

#### 高等学校段階

- 交通社会の一員として思いやりと責任ある行動が常にとれるようになる。
- 主に自転車及び二輪車等の運転者として安全に道路を通行するために必要な総合的知識と技能を習得する。

### 具体的な取組み

**高校生は**  
「交通社会人」としての自覚を持ち、よりよい交通社会づくりに貢献する。交通安全に関する学習活動に主体的に参加し、免許取得の際は保護者とよく相談する。

**学校は**  
状況に応じた交通安全指導を行う。中学との接続・地域との連携を図る。自転車の安全について指導する。生徒の免許取得状況を把握する。ヤングライダースクールを開催する。交通安全LHRを実施する。

**保護者は**  
子どもと免許取得について話し合う。「守るつて」の一言をかける。交通安全に関する行事に参加する。交通マナーの手本を自ら示す。

### 「スタートかながわ」の目指す姿

- 社会的責任の自覚
  - 交通事故の防止に向けた主体的な考えと行動
  - 事故を未然に防ぐための知識・技能の習得をもとに
- 交通社会の一員として、「へるま社会」を生きる力の育成を目指します。

〈先生方へお願い〉「スタートかながわ」のパンフレットが全校生徒分、各校に送付されます。生徒への配布と「スタートかながわ」の周知をおねがい

します。新入生については、入学式のガイダンス時に配布するなどし、保護者にもお知らせください。



いっわい話……

## 自転車点検の大切さ

自転車で事故を起こしてしまった。結果的に大したことがなくすんだのでよかったが、一瞬間違えば重大事故、それも自分自身のミスである。普段から他の人に比べれば安全に対する意識はかなり高い……と自分では思っていた。ところがである……落とし穴はいくらでもある。その報告。

「自転車点検」は、交通安全教室などで取り上げられ、教本などにも丁寧に書いてある。しかし、自分の意識としては「そんなもの、自転車では普通やらないでしょー」ブレーキはある程度きけばよいし、ライトは点灯していればよい……という感覚であった。

自分の愛用自転車で学校からの帰り道。比較的に見通しのよい丁字路にさしかかった。こちらが一時停止。スピードを落としながら、右をみて、左をみて、止まらずに右折しようとした。(これもいけないが……)このとき右からかなりのスピードでワゴン車が来た。私が右をみた際には十五mほど先までを確認したのであるが、その向こうの死角から来たのであった。このくらいはた

まにある話。「危ないー」とは思ったが、まだ止まれる、避けられると思い、ブレーキを強くかけた。そのときである。自分の自転車が思うように止まらない。何が起こったのかはとっさに分からなかった。このようなきには景色がスローモーションで映るといいうが、まさにそんな感じであった。車は近づくと、自分は止まれない……。自分が止まれないので、「車よ速く行き過ぎてくれ!!」と願った。しかし、結局その車の後部分に接触。私は転倒。

幸いなことに自転車も私も何でもなかった。車の運転者はあせって駆けつけてくれたが、「お互い気をつけましょう」で別れた。そして再び自転車に乗ってみて、なんとブレーキワイヤーが切れていることに気づいた。急ブレーキをか

けた際にワイヤーが耐え切れずに切れたのであった。10年前からのワイヤー、ややさびてはいるものの特に気にしていなかった。後から考えると恐ろしさが一層と増してくる。もうコンマ何秒こちらが先に行っていたら、その車の前に飛び出てしまったはずである。そうなる重大事故は避けられない。まさかワイヤーが切れるとは思ってもいなかったが、考えてみれば年季の入った自転車では強いブレーキをかけた際には起こり得ることである。この事故体験から改めて自転車点検の大切さを思い、生徒にも実感をもて伝えていく。そして新学期に校内で行う自転車点検では、必ず左右のブレーキを思い切りかけることを勧めている。

## 交通安全教育研究会刊行物の紹介

### 平成20年度調査 高校生の自転車利用

#### 状況と自転車事故調査のまとめ

(平成21年3月発行)

高校生の交通事故。なぜ自転車事故が多いのでしょうか。

高校生へのアンケートの結果から、利用者数が多いというだけでは説明できない、高校生の心理的側面が事故要因として浮彫りになってきました。必見です。

### 自転車教育指導の手引

#### 交通安全の視点から

(平成22年3月発行)

今回、当研究会では、自転車に関するさまざまな授業案、取組みなどを一冊の冊子にまとめてみました。従来の視点を変えた新たな取組みも紹介しています。ぜひ、ホームルームなどで活用ください。

ともに各学校に配付されます。